

# 佐藤佑氏(会全浄連)お別れの会

## 宮城県 石巻市 全国から600名が集い冥福祈る



二月十三日に八十三歳で逝去した一般社団法人全国浄化槽団体連合会会長・佐藤佑氏のお別れの会が三月十五日、宮城県石巻市の石巻グランドホテルで厳かに営まれた。親族や友人、業界・行政関係者ら約六百名が献花し、業界発展に尽力した卓越した指導者の安らかな眠りを祈った。

故佐藤氏は、昭和十一年三月二十二日、宮城県加美郡中新田町の生まれ。昭和三十三年に日本大学経済学部商学科を中退後、日本衛生興業社(昭和四十五年)に(株)日本清掃総業(改組)に入社し、技術の研鑽に励んだ後、昭和六十一年七月に同社代表取締役就任し、平成十三年に就任した。平成十九年に旭日双光章を受章している。

当日は冒頭、鈴木文夫実行委員長(公益社団法人宮城県生活環境事業協会会長)があいさつに立ち「故人は先月十二日の夕刻五時半頃に自宅で腹部の大動脈瘤が破裂し、石巻日

赤病院へ救急車で搬送され、仙台市立病院へ転送され緊急手術に入った。翌十三日の午前五時に容体が急変し、見守る家族の願いも虚しく帰らぬ人となった。平成二十二年八月九月に全浄連会長に就任した。平成十九年

院で半年ごとに経過を観察してきた。昨年十一月の定期健診で瘤の大きさが手術の目安となる五センチメートルとなっていたことがわかり、直前の二月五日に再度検診を受け、そろそろ手術を準備していたところだけに本当に悔やまれてならない。急なことであり、通夜・火葬は近親者・地元の方々にお願いし、執り行われ、本日改めて葬儀とお別れの会を執り行っ

た。このようにたくさん皆さまにお見送りいただいたことを、故人もさぞかし喜んでいと思う」と述べた。

続いて加藤敬規全浄連会長代理が「佐藤会長は今日まで一貫して浄化槽の清掃業に携われ、地元宮城県における浄化槽の普及、人材育成、生活環境・水環境の向上に尽力してこられた。全浄連会長に就任されてからは持ち前の類稀なる指導力を発揮され、環境省や国

の皆さまに託された。全浄連会長に就任されてからは持ち前の類稀なる指導力を発揮され、環境省や国

に尽力・貢献してこられた佐藤会長を失ったことは誠に痛恨の極みだ。われわれ全浄連の役員並びに全ての会員は、ここに佐藤会長の遺志を受け継ぎ、今後も一致協力して浄化槽の普及促進に務め、美しい水環境を守り、子や孫の代にしっかりと引き継ぐことができよう更に一層努力して

かけた。加えて全浄連の組織強化と機能の充実にも心血を注がれた。その功績は枚挙に暇がなく、いくら感謝しても申し足りない。佐藤会長は責任感が強く、決断力があり、面倒見が良く、人への思いやりに富み、職員にも温かく声を掛け、全浄連が難局に直面した際には常に大局的な見地に立つて行動をされた。本日こうして遺影を前にすると、永らく宮城県そして全国の浄化槽業界のために尽力・貢献してこられた佐藤会長を失ったことは誠に痛恨の極みだ。

いことをお誓い申し上げる」と万感の思いを込めて弔事を捧げた。このあと山条忠文一般社団法人日本環境保全協

会会長が送辞を述べ、中川雅治環境相など多数の弔電が紹介された。【写真上は故佐藤氏の祭壇と当日の会場の模様】